2020 年 4 月 30 日
株式会社オリエンタルランド

2020 年 3 月期 決算電話説明会 質疑応答

実　施　日　：	2020 年 4 月 28 日（火）	
当社説明者：	代表取締役社長（兼）COO	上西 京一郎
	常務取締役　経理担当役員	横田 明宜
	IR グループマネージャー	菅原 海（司会）

以下は、説明会における主な質疑応答を取りまとめたものです。

Q1) 営業再開の判断基準や、再開後に想定される運営方法を教えて欲しい。

A1) ゲスト、キャストの安全を最優先に考えており、外部環境を踏まえながら最終的には当社で判断する。運営方法については、様々な想定で検討を進めている。

Q2) 新型コロナウイルス禍やアフターコロナのテーマパークのキャパシティはどのくらいを想定しているのか。

A2) 足もとでは、ゲスト、キャストの安全を第一に考え、ディズニー社とも協議をしながら運営方法を検討しており、具体的なキャパシティについてはお伝えできない。長期的には、入園者数と単価のバランスを取りながら、収益化を図っていくことが重要になってくると考えている。

Q3) 大規模投資について、開業時期や総投資額など、計画に変更はないか。

A3) 現時点では大きな変更はない。開業時期や総投資額に変更が生じないようにする考えではあるが、安全第一で、決して建設会社に無理なお願いはしない。

Q4) 資金調達が必要な場合、どのような方法を検討しているのか。

A4) 現状は手元資金で対応できるものの、新規で資金調達をする場合を想定し、直接、間接金融含めて検討している。発行済みの社債や再設定済みの地震リスク対応型ファイナンスはあるものの、地震リスクに備えておく必要があり、活用予定はない。

Q5) 従業員の雇用や休業補償についてはどのように考えているのか。

A5) 従来、準社員については、規定に基づいて補償を行っていたが、給与保障の増額を行った。従業員の雇用を守ることが当社にとっての最優先事項であると考えている。

Q6) チケット価格について、景気後退や消費者マインドの変化の影響を受けるのか。価格改定を判断した理由や今後のチケット戦略も踏まえ、考え方を説明して欲しい。

A6) 東京ディズニーリゾートの価値は変わらず、長期的には大きな影響は無い。チケット価格は、従前どおり、市場調査の結果を踏まえつつ、テーマパークの価値に見合った価格にしており、ベースの価格自体を変える考えは無い。

Q7) コア事業であるテーマパークが臨時休園となったことから、以前よりも新規事業の創出に注力すべきであると考えているのか。

A7) 新規事業に取り組む気持ちは変わらない。2020 中期経営計画の期間中はコア事業に注力してきたが、引き続き新規事業創出にも取り組んでいる。なるべく早くお伝えしたいと考えている。

Q8) 上西社長のメッセージから、「新型コロナウイルス感染拡大という危機を乗り越えてより良い会社にしていきたい」という意思を感じた。これを機に新たに認識した強みや課題などがあれば教えて欲しい。

A8) 臨時休園が長期間続いていることで、改めて当社がゲストの皆さまに伝えるべき価値を実感し、今こそ前を向いて当社の成長に繋がる取り組みを進めていく必要があると感じている。当社の強みは変わらず“人”であり、「事業を支えたい」「ゲストにハピネスを提供したい」と心から思っている従業員がいることであると考えている。一方で、働き方や業務の進め方などは改めて見直すべき点もあるため、目の前のゲストへの対応に全力を注ぐことと同時に、中長期的な視点で改革することの重要性を再認識した。

以上